

初任地「鳥取」

私が、監督官生活をスタートさせましたのは、山陰



の鳥取県でした。大学卒業後、地元の間間会社に就職しておりましたが、将来に不安を感じ、転職しました。労働基準監督官試験と地方公務員を受験して、辛うじ

て合格、どちらに進もうかと考えていたときに、当時はたまたまその地方公務員の職員がスーパー店長殺人事件を起こしていたこともあり、労働基準監督官を選びました。

最初の配属先の電話連絡があつたときに、私は有給休暇をとってスキーに行っていました。退職するまでに年次有給休暇を全部取ればいいよという、やさしい上司がいたおかげでした。

私がスキーから戻ると、「鳥取労働基準局から電話があつて、配属が決まったけれど来てもらえるかと聞かれたので、お願いしますと伝えたよ」と祖母から聞きました。その他はなまりがひどくて良くわからなかったそうです。地方公務員の方はすでに辞退してしまっていたので、どこでも行く気でいましたが、鳥取ってどこ？ と日本地図を広げて確認しました。採用通知文

書の前に、電話連絡をわざとわざと聞いていたのは、後に聞いたことですが、前年度に採用になった監督官が直前に辞退したため、大騒ぎになったからだろうです。そのこともあり、採用後もいろいろ良くしていた

鳥取と聞くと、みなさん、



丘によく泳ぎに行きました。また、岩美郡岩美町の浦富海岸は「山陰の松島」と呼ばれています。「日本の渚百選」にも選ばれ、自然が彫刻した岩と白砂青松の海岸は、文豪の島崎藤村も絶賛した景勝地として知られています。遊覧船で、約15kmにわたって続くリアス

式海岸を進みますと、変化に富み、海食や風食によつてできた奇岩、洞門、断崖絶壁が点在しており、まさに絶景です。浦富海岸周辺の海の透明度は高く、海底まで見透せます。

真つ先に鳥取砂丘を思い浮かべると思えます。とくに早朝、まだ誰も足を踏み入れていない鳥取砂丘の一面に広がる風紋は、圧倒的なスケールと美しさです。日本海に沈む夕日もすばらしく、刻々と変わっていく空と海の微妙な色合いが絶景です。当時、鳥取砂

鳥取県の名産は、二十世紀梨が有名ですが、砂地で作る長芋やらつきよ、大栄町のすいかなどおいしいものが多いです。私は、二十世紀梨の選果場（農協など収穫した梨を大きさ、等級等で選別して箱詰めして出荷するところ）に出かけて行って、ちよつと傷があるのを安く購入してしま

た。親に送るといふ話をすると「学生さん、えらいねえ」と、安くしてもらった上に、おまけまでしてもらいました。今も若く見られますが、当時は、大学生に見られていました。

ほかに鳥取港、米子港があり、海産物も豊富です。特に松葉ガニ、最近では漁獲高が減っているようですが、スーパーでメスガニをびつくりするほど安く売っていました。当時は、産地表示のタグもなく鳥取で獲れた松葉ガニが越前ガニになって値段も上がるということでした。冬の宴会は、飽きるほどカニづくしでした。

平成22年にNHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」で水木しげるさんの奥さんが書いた自伝エッセイがドラマ化された後、水木しげるロード、水木しげる記念館など観光スポットが増えました。

皆さんも、機会がありましたら、是非、鳥取にお出かけいただいてはいかがでしょうか。

イラスト・森沢康代